

『ストレスケア思春期病棟におけるアサーショントレーニングの試み』

はじめに ①

- 当院のストレスケア思春期病棟では、抑うつ症状を主症状とする患者を対象に短期集団認知行動療法が行われている(中村他, 2006)。
- 短期で最大限の治療効果を期待できるよう、プログラムは構造化されており、途中参加ができない。

第72回日本心理学会 平成20年9月20日 札幌市
五稜会病院 春名大輔

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

はじめに ②

- 入院の時期によっては、数週間参加ができないという状況も発生する。しかしながら、患者のニーズは高い。
- そこで、待機することなく参加可能な集団アサーショントレーニングプログラムを作成し、2008年2月より開始した。

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

目的

- 本研究では、プログラムの効果の検討として、継続して参加が得られた患者の自己表現についてのセルフエフィカシー及び、対人交流に対する主観的満足度を検討した。

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

対象者

- プログラムへの参加は、ストレスケア思春期病棟に入院中で、本人が希望もしくは主治医の推薦によってなされた。
- 対象者は、平成20年2月18日から8月18日の間に、プログラムへの参加を申し込みがあった90名のうち、プログラムに参加した75名(男性22名, 女性53名)とした。

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

プログラムの概要

- プログラムは1回45分, 全8回。定員は2~6名。

共通 心理教育	言語的工夫①	エクササイズ
	言語的工夫②	
	非言語的工夫①	ロールプレイ
	非言語的工夫②	

* 各々の工夫について、エクササイズ・ロールプレイを2種類ずつ用意。

Fig 1.プログラムの構成

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

指標

- プログラムの効果の指標として、自己表現についてのセルフエフィカシーと対人関係に対する主観的満足度を測定した。
- 指標は、プログラムの参加申し込み時に申し込み票とともに10件法を用いて記入を求めた。

* 簡単なアンケートにご協力をお願いします。

Q1. 今回コミュニケーション・セミナーに参加しようと思った理由を簡単に教えてください。

Q2. 現在の自分自身の自己表現について、どの程度上手く出来ていると感じていますか? (当てはまるものを○)

全く出来ていない 5 10 上手くできている

Q3. 現在の自分自身の自己表現について、どの程度満足していますか? (当てはまるものを○)

全く満足していません 5 10 満足しています

ご協力ありがとうございました。

Fig 2.アンケート用紙

こころと身体のアプローチ
指導員 五稜会病院

指標の分析

- 初回参加時のセルフエフィカシーと主観的満足度をベースラインとし、その平均値と2回目以降の平均値との差を比較した。
- プログラムの構成上、4回の参加によって、内容が一巡するため、本研究では4回目までの得点について検討した。
- 検定は、Mann-Whitney の U検定を用いた。

こころと身体のクリニック
五稜会病院

結果① 対象者の診断の内訳

Table1.参加者の平均年齢、診断の内訳

	男性	女性
参加人数	22	53
平均年齢	39.23 ± 7.77	30.23 ± 9.32
診断		
妄想性障害	2(1)	0
感情障害	17(7)	35(13)
神経症性障害	3(1)	10(4)
パーソナリティ障害	0	8(2)

Note:()内の数字は、重複した参加者を表す。

こころと身体のクリニック
五稜会病院

結果② 参加状況

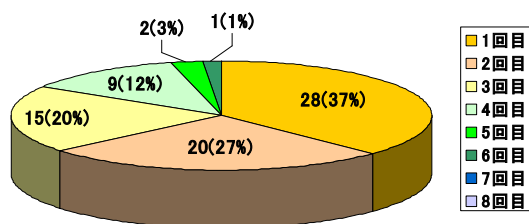


Fig 3.各回の参加者数

こころと身体のクリニック
五稜会病院

結果③ 指標の分析結果

- 自己表現についてのセルフエフィカシーの平均値は初回時に比べ、3回目、4回目の得点が有意に高かった。
- 同様に、対人関係に対する主観的満足度の平均値は初回時に比べ、3回目、4回目の得点が有意に高かった。

こころと身体のクリニック
五稜会病院

セルフエフィカシー

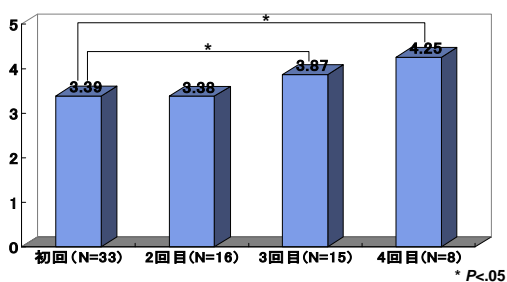


Fig 4.各回のセルフエフィカシーの平均値

こころと身体のクリニック
五稜会病院

主観的満足度

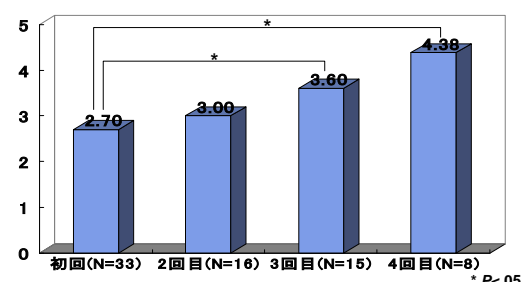


Fig 5.各回の主観的満足度の平均値

こころと身体のクリニック
五稜会病院

考察①

- セルフエフィカシー及び主観的満足度は、3回以上、継続して参加することで高まっていることが明らかとなった。
- セルフエフィカシー及び主観的満足度を高めるためには少なくとも3回以上の参加が必要であることが示唆され、参加の継続の動機づけを高める必要が考慮される。

こころと身体のリニック
研究部
五稜会病院

考察②

- しかしながら、利用の実態として、全てのプログラムに参加された患者がおらず、最大でも6回の参加にとどまっており、継続した参加がなされていないことが示唆された。
- 共通した教育セッションを設けることで、柔軟に参加できる反面、重複した内容の繰り返しによって参加継続の動機づけの低下を引き起こしている可能性が考えられる。

こころと身体のリニック
研究部
五稜会病院

まとめ

- 継続した参加によって、対人交流についてのセルフエフィカシー、主観的満足度は高まることが示唆されたが、継続した参加がなされていないという現状が明らかとなった。
- 今後の課題として、プログラム内容を検討し、参加継続の動機づけを高めるような工夫が必要であること、また、統制群との比較などによる効果検討が必要と考えられる。

こころと身体のリニック
研究部
五稜会病院